【事業名：石鎚山系における希少野生植物等保全事業】
【団体名：愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会】

令和元年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

- 近年、石鎚山系におけるニホンジカの侵入・生息域拡大による自然植生被害が懸念されている。
- 当該地域は、三方向からの侵入経路があり、地理的に効率的な捕獲が困難な状況。
- 保護区域指定以降、植生等の調査情報は限られており、整備された資料がない。
- ニホンジカや生態系の問題についての認識が、有識者や一部の登山者にとどまっており、高標高域でもある中、保全活動につながりにくい。

→ 自然植生への影響が軽微な段階から、希少野生植物の保全対策に取り組む

事業の内容

事業①　植生等調査事業

・現地調査により、植物リストを作成し、保全が必要な希少植物と群落を抽出した。
・センサーカメラにより、ニホンジカ侵入調査を実施した。
・石鎚山系のニホンジカ生息密度を調査した。

事業②　人材育成事業

・ニホンジカの生態や痕跡に関する知識を深めるため、座学、勉強会を開催した。
・モニタリングマニュアルを活用した、現地ワークショップを開催した。
（参加者（延べ）約130人）

事業③　普及啓発事業

・ニホンジカによる植生被害と生物多様性保全の関係について正しい知識を普及するため、シンポジウムを開催した。（R2.2.15　参加者約250名）
・啓発登山（県事業；約100名）に合わせて、石鎚山系のニホンジカ被害に関する出前講座を行った。

事業④　防護事業

・平成30年度に策定した保全計画に基づき、希少植物の群落に防鹿ネットを設置した。
（R元.11.6　参加者約30名）

得られた成果

- 標高1,000ｍ以上の登山道等で確認された植物種とRDB種の位置等記録（確認された766種のうち愛媛県もしくは環境省RDB種は111種）。
- センサーカメラ調査では、昨年度は撮影されなかった地点にも撮影され、石鎚山系での生息域拡大が懸念される。また、階層ベイズモデルによる石鎚山系の個体数算出結果は（県全体の推定個体数を割振るため、精度が高いとは言い難いが）、約1,000頭と推定された。
- 設置した防鹿ネットは、継続的にネット内外の植生の変化をモニタリングするとともに、必要に応じて修繕を行い、保全の効果を高める。
- 保全活動や情報収集を、地域で継続して実施できるよう、協議会会員を中心に、より専門的な講習等を実施し、人材育成に取り組む。
- 高知県側（四国森林管理局、県庁、民間団体等）とも連携し、石鎚山系の生態系保全に取り組む。